



平成 29 年 8 月 5 日（土）名城大学八事キャンパスにて 「名城大学公開講座 家族と学ぼう！くすり実験教室」を開催

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、高齢者や小学生に「くすり」や「薬物依存」のことを知ってもらう授業や体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）の協力の下に行っています。

名城大学および名古屋市天白区薬剤師会のご協力により、平成 29 年 8 月 5 日（土）、名城大学八事キャンパスにて「名城大学公開講座 家族と学ぼう！くすり実験教室」を下記の内容にて開催しました。

当日は、小学生 7 名（4 年生：2 名、5 年生：3 名、6 年生：2 名）、中学生 2 名（1 年生：2 名）、父兄 9 名が参加し、くすりについていろんなことを知れてとても楽しかったと大好評でした。

名城大学八事キャンパスにおける「くすり教室」

日時：平成 29 年 8 月 5 日（土） 14 時 30 分～16 時 30 分
場所：名城大学八事キャンパス 7 号館 3 階生物系応用実習室

内容：

・「実験を始める前のお話」：Q&A 方式

鍋島俊隆先生（NPO J-DO 理事長）、名古屋市天白区薬剤師会会長 須川雅之先生の挨拶の後、くすりをどのように飲んだら良く効き、副作用を防ぐことができるか、Q&A 方式で小中学生に答えてもらうような参加型形式で行いました。名城大学薬学部 野田幸裕教授（NPO J-DO 副理事長）がスライドを使ってわかりやすく説明しました。小中学生は元気よく挙手して活発に問い掛けに答えてくれました。

・「体験実験」

内容をより理解できるように、小中学生とその父兄は親子で 8 班（1 班 2～3 名）に分かれ、本学部 間宮隆吉准教授（NPO J-DO 理事）、薬学生の補助・解説を受けながら体験実験を行いました。野田幸裕教授は各グループを巡回し、各グループの体験実験などを補助する薬学生（薬品作用学研究室 5 年生 6 名、病態解析学 I 6 年生 3 名、5 年生 4 名、および 4 年生 6 名）と共に進行調整や助言を行いました。

<実験項目>

1. コップ 1 ぱいの水かぬるま湯で「くすり」を飲むのはなぜ？
2. 水がなくても飲める「くすり」があるのを知ってる？
3. シロップの「くすり」とお茶と一緒に飲むとどうになってしまうの？
4. 「うがいくすり」でうがいをした後に、すっぱい食品を食べるとどうになってしまうの？



制作：名城大学薬学部病態解析学 I
（柳本佳南、林 千裕、野田幸裕）・
薬品作用学（間宮隆吉）・衛生化学
（加藤奈波、高木修平）
監修：NPO J-DO（鍋島俊隆）

